

2012年1月1日掲載

親子みちのく紀行／仙台編

今年で15周年を迎える「つれづれWEB」の年頭は、昨年クリスマスの1泊2日東北旅行の様をお届けしよう。今回の旅行は、私と上の息子の2人だけである。

昨年3月にデビューした東北新幹線E5系に乗ることが、旅の主な目的。このほか、一度目にしておきたいものを何か所か巡るのだ。

ただ、1つ懸念材料がある。予報では、クリスマス寒波が襲来するらしい。雪がどの程度降るのか、そして積もるのか、皆目見当がつかないのだ。

1日目の朝、7時過ぎに自宅を出発。目指すは東京8:56発「はやて19号」だ。

「はやて19号」は、昨年11月19日からE5系で運転されている。E5系の最速列車「はやぶさ」より、安く乗ることができるのだ。



駅弁を買い、乗車。「はやて19号」は、定刻に出発した。

いざE5系に乗ってみると、最新鋭の新幹線だけあって揺れは少なく、乗り心地もいい。あっという間の1時間半である。

10:37に仙台着。駅を降りてペDESTリアンデッキを歩くと、まずはペンギンが出迎えてくれた。



さらなる出迎えも。地元テレビ番組の生中継あるとのことで、チョロッと顔だけ出演した。

出迎えはまだ続く。松島へ行くため再び改札に入ると、今度はサンタに出くわす。

サンタから、我が息子には飴が、私にはメッセージカードが手渡された。カードには、こう書かれていた。

みんなの笑顔で、東北を元気にしていきってください!!
応援してます☺ 京都府より

東京から来たのにもらっているのか確認したところ、ぜひのこと。せっくなのでいただくことにした。

仙台から仙石線に乗り、6つ目の駅に降り立つ。この駅は、福田町である。

そう、私の名字と同じ駅なのだ。どんな駅なのか気になっていたもので、訪れてみた。

駅そのものはこじんまりとしている。また、駅周辺は至って住宅街で、商店は駅から少し離れたところにあるコンビニくらいのようなのだ。

福田町をあとにし、松島へと向かう。この模様は[こちら](#)へ続く。

[\[トップページ\]](#)

2012年1月7日掲載

親子みちのく紀行／被災地編

今月は「親子みちのく紀行」をお送りしているが、今回はその2回目。今回は[こちら](#)をご覧ください。

福田町から再び仙石線に乗り、松島海岸へ。日本三景の1つ、松島の最寄り駅である。

松島海岸に着くと、我が上の息子は新幹線で残した駅弁を駅ホームで食べる。私も昼食をと思ったが、前日のクリスマスパーティが響いてか、あまりおなかがすいていなかった。

せっかくだから、軽く松島の海産物でもありつこうかと考えたものの、結局は食べずじまい。でも、牡蠣でも食べておけばと、今となっては後悔したりする。

我が息子が駅弁を食べている間、ホームから国道45号線を見ると、2～3分に1台の割合でがれきを積んだトラックが通り過ぎる。おそらく、石巻方面からやってきたのだろう。

駅弁を食べ終えた我が息子とともに、松島海岸駅前にある松島グリーン広場へ。ここにも、震災の爪痕があった。

震災で地盤沈下したところに津波が押し寄せたため、広場内の海沿いが未だに冠水しているのだ。従って、海に近づいて松島を見ようと思っても、近づけないのである。



さらに、駅前には津波に襲われたままの店舗が残っていた。国道45号線には警視庁や栃木県警のパトカーが走るなど、比較的被害が少なかった松島とはいえ完全な復興はまだのようである。

松島の名産品と言えば、笹かまぼこ。我が息子も、笹かまを食べるのがこの旅の目的の1つと思っているようだ。

笹かまぼこ屋に入店すると、そこには熱々の網が。この店では、笹かまを自分で焼いてその場で食べることができるのだ。

おみやげを買い終えた我々は、もちろん笹かまの手焼き

を体験する。片面3分ずつで焼き上がるようだ。



やはり、焼きたての笹かまはうまい！ 我が息子もご満悦である。

松島海岸に戻り、仙石線代行バスに乗る。仙石線は高城町一矢本で不通となっており、松島海岸一矢本は代行バスで結んでいる。

14:40に松島海岸を出発したバスに乗車した我々は、早速震災の被害を体感することになる。橋や道路の段差が所々あり、そのせいで激しく揺れるのだ。

そして、津波被害が大きかった東名（とうな）、野蒜（のびる）にさしかかる。被害を受けた建造物は半壊・全壊問わずことごとく片付けられ、ほとんど更地となっているが、一部手つかずの建物が残っている。

姿をとどめた建物も、ドアや窓ガラスはすべてなくなり、中が丸見えの状態。9か月以上もこのまま放置されているので、主の消息が大変気がかりである。

今回の旅行でいろいろ撮影をしたが、さすがにこの光景を写真に納める気にはなれなかった。何人もの命が失われたこの地を、物見遊山的に撮影するのははばかられると感じたからである。

車内でゲームをしていた我が息子も、ゲームをやめてこの現実を食い入るように見ていた。のちに「悲しい」と感想を語ったので、小学1年生の彼なりに何かを感じたのだろう。

この地に我が息子を連れてこようかどうしようか、非常に迷った。でも、社会科見学として現地を訪れて正解だったようだ。

矢本に到着し、再び仙石線に乗り石巻へ。この続きは[こちら](#)からどうぞ。

[\[トップページ\]](#)

2012年1月14日掲載

親子みちのく紀行／宮城縦断編

「親子みちのく紀行」としてお送りしている、今月の「つれづれWEB」。今回はその3回目となるが、[1回目](#)、[2回目](#)はそれぞれからどうぞ。

矢本から仙石線で石巻へ。石巻に着くと、駅構内でこういうものが出迎えてくれた。



石ノ森章太郎原作のキャラクターである。石巻は石ノ森章太郎の出身地で、それを町おこしの一環としているようである。

仙石線には、彼が原作のキャラクターを描いた「マンガタンライナー」が2本存在し、石巻まで運転されている。ところが、震災で線路が分断され全線復旧の見通しが立たないため、マンガタンライナーが石巻にやってくることは当分なくなってしまった。

一方、駅前にあるからくり時計は、毎正時になると石ノ森キャラが動き回るのだ。我々はちょうど16時に石巻駅前にいたので、からくりを見ることができた。

石巻16:21発の石巻線小牛田（こごた）行きに乗り、終点の小牛田へ。途中、みるみる日が落ちて、小牛田到着前にはすっかり闇に包まれた。

小牛田で東北線に乗り換え、一路仙台へ向かう。松島―塩釜は、昼に乗った仙石線と並行している。

その様子を見ようと思っていたが、夜になってしまったのでよくわからずじまい。ただ、線路のようなものは一応見えた。

17:57に仙台到着すると、コンコースは人だかりになっていた。コンコース内でクリスマスコンサートが行われており、ちょうど始まったところのようだ。

コンコースを出て、7時間半ぶりにペDESTリアンデッキに降り立つ。そうすると、雪が舞っていた。

週間予報では雪の懸念があったが、舞う程度なら大丈夫。

とりあえずは杞憂に終わりそうである。

ところで、昼間我々を出迎えてくれたペンギンは、きらびやかなイルミネーションとなっていた。写真ではよくわからないが、ホワイトクリスマスで幻想的な光景となったのである。



仙台からは新幹線に乗り換え、福島へ。そのため、特急券を購入する。

今回利用したのは「ウィークエンドパス」。おおよそ山形・宮城県以南のJR東日本と地方の13社の私鉄が利用できるフリーパスだが、新幹線や特急を利用するには別途特急券を用意しなければならない。

そこで、福島までの新幹線特急券を購入することになる。どうせ空いているだろうと思い、自由席にする。

仙台始発の「やまびこ220号」に乗り、福島へ向かう。案の定、座席に余裕があったため2人並んで着席することができた。

新幹線に乗って、気になることが。それは、チキンのにおいである。

誰かが車内にチキンを持ち込んだようなのだが、チキンの袋を持ったまま我々とともに福島で下車した。もしかしたら車内で食べずに、おみやげとして持って行くのだろうか？

そう考えると、福島には有名チキン店は存在しないのかと考えるともなる。実際、福島市内では駅前でなくロードサイド店だけのようだ。

そんなこんなで、18:41に福島到着。以下は[こちら](#)へと続く。

[\[トップページ\]](#)

2012年1月21日掲載

親子みちのく紀行／福島編

「親子みちのく紀行」は、今回がその4回目。[1回目](#)、[2回目](#)、[3回目](#)はそれぞれをご覧ください。

福島に到着し、東口駅前に降り立つ。仙台では雪だったが、福島は降っていなかった。

駅前には、巨大なツリーのイルミネーションが。クリスマスという時節柄、いろいろなイルミネーションが駅前に飾られている。



我々の宿は、駅舎の隣のホテル。当初計画では仙台で宿を探すつもりだったが、クリスマスということで空きは皆無だった。

そこで、仙台からそう遠くない福島と山形で探したものの、山形は激しい雪の懸念があったので対象から外す。一方、福島のホテルでは好条件でヒットした。

ここでのプランは、親子2人で添い寝すると、朝食付きで1部屋7000円なのだ。しかも、子供向けのアメニティグッズつきとあって、何ともリーズナブルである。

チェックインを済ませて荷物を置き、夕食を探しに駅前を散策。すると、直近で気になる居酒屋を見つけ、入ってみる。

メニューを見たら、会津産馬刺しを発見。注文して食べてみると、赤身で軟らかい。

普段行く居酒屋の馬刺しは、冷凍物で霜降り。それに比べると、雲泥の差なのだ。

そして、店員が「店長からのサービスです」と言って、チョコパイとアイスの盛り合わせを持ってきてくれた。どうも、クリスマスだからということのようだ。

今回の旅行で、我が息子は寒さ対策でパンダの帽子を被

っている。町を歩けば女性が必ず振り返るほどのかわいい帽子なので、そのせいもあったのかもしれない。

居酒屋を出ると、雪が降ってきた。ここでもホワイトクリスマスである。

この雪は積もってしまうのだろうか？ そんな思いで宿に戻り、就寝した。

翌朝、起きてみたらうっすら積雪。とはいえ、一応地面が見えているのでこれからの行動には影響がなさそうだ。



今回の旅行は、クリスマス寒波の襲来が予想されていた。雪が降るとされていただけに、この程度で済んでよかった。

この日は8時に起きればよかったのだが、我が息子は7時に起床。普段は7時には起きないのに、週末になると途端に早起きになる。

実は、早朝の子供向け番組を見たいがために早起きになるのだ。それは、旅行中でも変わらないのである。

朝食を済ませて、チェックアウトする。目指すは、飯坂温泉である。

駅前を歩くと、気温は0.7℃と表示されていた。数字的にも体感的にも、思ったほど寒くはない。

飯坂温泉へ向かうには、飯坂電車に乗る。この続きは[こちら](#)からどうぞ。

[\[トップページ\]](#)

2012年1月28日掲載

親子みちのく紀行／飯坂温泉編

今月お送りしてきた「親子みちのく紀行」も、いよいよ最終回である。[1回目](#)、[2回目](#)、[3回目](#)、[4回目](#)はそれぞれからどうぞ。

福島駅前の宿を出発し、目指すは飯坂温泉。「飯坂電車」こと福島交通飯坂線に乗って、飯坂温泉へと向かう。

9:12福島発の飯坂温泉行きの電車に乗る。ところが、飯坂温泉に近づくと雪が降ってきた。

福島から20分ほどで、飯坂温泉に到着。駅前広場には、雪が結構積もっていた。

とはいえ、雪は降っているものの道路に積雪はないし、晴れ間も時折見える。行動には影響のない程度の雪でよかった。

飯坂温泉に着き、まず我々が向かったのは足湯の「ちゃんこちゃんこの湯」。「ちゃんこちゃんこ」とは、方言で「石段」という意味らしい。

駅前の十綱橋（とつなばし）を渡ると、廃墟のホテルが。ガラスのドアの中を見ると、床に落ちた天井が粉々になっていた。

さらに、柱のあちこちにひびが入り、その個所にはスプレーでマーキングされていたのだ。今後は解体される運命にあるだろうが、それまでの間この姿を温泉街の中心でさらすことを思うと、少しむなしい。

「ちゃんこちゃんこの湯」に到着すると、すでに先客が2人いた。この足湯は、1回の店舗を開放したような構造になっている。

雪を見ながらの足湯は絶品。旅の疲れも癒される。

我々は10分ほどで上がる。先客は、まだまだ足湯につかるようだ。

次に向かったのは、公衆浴場「波来湯（はこゆ）」。2011年初頭に現在地に移転オープンしたとあって、とてもきれいな温泉である。

入浴料は大人300円、子供150円。タオルは250円で販売しているので、親子2人分を買っても、合計すると1000円で



50円のおつりが来るのだ。

中に入ると湯船は2つあり、1つは熱い湯、もう1つはぬるい湯となっている。それぞれに温度計があるものの、ぬるい方は「41℃」と表示されているのに対し、熱い方は故障しているようで表示部分を「45℃設定」と書いたプレートで覆っていた。

なお、ほとんどの人はぬるい方にしか入らず、熱い方は数えるほど。試しに私も熱い方にチャレンジしたが、足だけで断念してしまった。

温泉で暖まり、10:55の電車で福島に戻る。でも、少し時間があるので我が息子は駅前で念願の雪遊びをする。

我が息子は、雪に寝そべったり、雪だるまを作ったりして遊んだ。その雪だるまはこれである。



飯坂温泉10:55発の電車で福島へ。雪は途中で激しくなるも、積もるようなことはなかった。

福島へ戻り、ここで昼食。駅ビルでラーメンを食べ、おみやげも購入する。

いよいよ帰京となるが、問題はどうか帰るかである。普通に新幹線に乗ってもいいのだが、ウィークエンドバスは別途特急券が必要となる。

せっかくなので、ひたすら在来線で帰ることにした。福島から我が家まで、実はたった3回の乗り換えで帰ることができるのだ。

ただし、時間は5時間以上もかかる。我が息子も、長時間移動を了承した。

福島12:24発の黒磯行きに乗車する。この列車は6両編成だが、後ろ4両は途中の郡山止まりとなるため、東京へ向かうには前2両に乗らなければならない。

あと、この旅全般の在来線に共通するのが、東北では車内保温のためドアは自分で開けないと乗降できないのだ。よそ者が乗り降りしようとしても、勝手に知らないといつまでたってもドアが開かないことになる。

約50分で郡山に到着し、後ろ4両を切り離す。すると、2両編成になったこともあり、車内が混雑してきた。

我が息子が車内でトイレに行こうにも、常に使用中の状態。結局、この列車でのトイレはあきらめたようだ。

また、車内には「青春18きっぷ」の時期のためか、鈍行旅行を楽しんでいるとおぼしき人が数人いた。時刻表や地図帳、行程表などを眺めながら大きめの鞆を携えた一人旅なので、すぐ見分けがつく。

豊原で栃木県に入り、東北ともお別れ。14:23に黒磯に着き、乗り換えとなる。

ここで、交流電化区間から直流電化区間に。車両も、首都圏で見慣れたものになる。

黒磯14:40発の宇都宮行きに乗車。おみやげを網棚に載せていたが、どういうわけかこの列車に乗っているときだけ、カーブの遠心力で紙袋からおみやげが飛び出して床に落下してしまった。

しかも、1度だけではなく2度も。この列車では、置き方が悪かったのかもしれない。

黒磯は所定で出発したこの列車は、矢板で遅れていた貨物列車の待避が行われたため、宇都宮には5分遅れで到着。本来なら、15:31に着いて7分接続で湘南新宿ラインの快速逗子行きに乗り換えが可能になるが、これでは乗り換えはわずか2分しかない。

幸いにして、対面乗り換えのため難なく乗り換えができた。もし、跨線橋を通るようなことになると、湘南新宿ラインまで遅れる事態になるところだった。

宇都宮から1時間半、福島からだと通算4時間40分以上をかけて池袋着。その間、我が息子はほとんどゲームで遊んでいた。

池袋で、最後の乗り換えを果たす。我が家には、18時前に到着した。

これにて、今回の旅は終了となる。結局、クリスマス寒波も大雪の懸念も大したことはなく、東京よりもちょっとだけ寒いという印象である。

今回は、初めてとなる上の息子と1泊2日の2人旅だった。我が息子も楽しかったようだし、たまにはこういう旅もいいもんだ。

[\[トップページ\]](#)